乱舞道人教書類

玉かつま　本居宣長著述
拔萃

あかくふんさてべきこと

乱舞道人教育書類

85
80
75
70

玉かつま 本居宣長著述 拔萃

むかつま 千居宣長著述 拔出

掛かくふ

掛かくふ（ことばの紙）

ことばのかどは、又さらぬ、ことにも、掛かくふ、ゐるべきるすごを、ゐつる、ゐあまだ、ゆけだ、きけだ、さけだ、ちまだ、ゐどゐふ、ゐぬぐひ乃、云ま、ゐ、ゐ、ゐ

おまきとともに姫宮ふかきてゝ、てふたとさたた
ふまびるまばこ、又かくまぐらとてみるちまどのかふ歌
字をかくい、ぐことこ、ちまるまちかハ、妻ちまて
歌といふことふあらじ、さ礼ど、妻とゑべきふたる
ちまうぎまバ、ちぢ姫宮ふかくぞよた。又源が住ち
ちど、上をちぶ字、下を姫宮ふるふゑさはハ、こちちく
尼西、ちるぬぐひもお同じ、さびしふ淋字いにぞや、
おだ西、なお尼ふ詠字もいふぐ、詠ハ、壹をもむる
ことふしを詠、抽を尼るちぶ尼ふハよし。形し、
さてゝ又はもふ尼ちまぬ抽もぢ伐はちふす、ちべて
ゝ詠し、ちべてく上、伴乃ちぐひちすどを、牧ふと
おちかるを、ふうハちぢ男ひ出るまた、一ッ二ッいゝはふ
乃ちこ、ちまぢちゝて、ふたべし、そをくいふゝ人ゑ、
男ゝさしもちふはふハ抽をだで、抽かきたるもおちち
ちふて、文字ぬども、ふりまるせてゝ出ゝれバ、ふちも
ぬぐふに出てもはりぬべし、ちまでこちくと
をゝを字ハくぶくし記後の世ふりてゝはめど
男ふ人ちべし、ちべてく古へちをこ乃みく、よちづり
ふちぬちらむとかまふる人ちかはすふをバ、ふ
むきくはちちを記ぐと、もどくべう尼まど、そま
さしもはちじ、いゝゝち、かちち乃人も、皆ふはちふ
ちりしかど、いちりゑても、よちみるぐふふとなち
をしぶゝてはま、ちぬ世ハ、ちづちてちゝえ
ちち尼、かちゝ乃人ち、尼ちゝ、尼ちゝ祝ど、ことちち往ど、
よみちぐゝ、宮し、ちがむるちぐひ乃ちゝ多かまど、
いにもぬかくふハ、ふちべきちちぎちとおのまハ男ひ
ちちてぞはる、さ礼ばおのまぐくせちて、はちり
ぬかくふ、よみるゑぐせせん、うつし、ちが尼せせんと

とりてぞはる。さればおのまがくせりて、はまりあかくふ、よみあえぬせん。うつし云がえぬせんと
乃こ、ゝゝゝ

うはかりて。そこ迄思ひて。かくまできこえ侍りき。
かくばかり。又古学のともがらなどハ。はゝそ集
おもふこと乃出きぶ酒りなくひて。なちくぬるもの。
ざ乃みぶり好きもおかし。かの集おもふ。
かきはせらる。なちくぬ歌かくのごとにを。こゝを
かるたゝとの多きぞかし

安政二乙卯年 弥八月廿八日 再写之

先師の家に向ふ坂中ハ分おく出坂長近
門前ハ橋屋と中近くい

当

一心教礼 そも〳〵ケイレイト云来リテ和之シガ 薄海三丁
ヨロレカスベド 平生四ヒ来リシガ此度サレ銭サ
レシ事ニキマリ付アリ 尚村ハ此

先師の言葉に見事なり
ト御ハ博学と云ヤ御近
[illegible]

蕉
一心敬礼　先師ケイレイト云来リテ云シガ漢語ニテ
ヨシロスベト平生思ヒオリシガ此度サル銘サ
レシ事ニ　キヤウ和ト俗字付アリ　尚何ハ必此
云フヤ　呉音ニテ此方ヨロシ　仏語ハ呉音ナレバ
同デ云
数輩ノ中ヨリ進出　先モレンセイト云来リ
銘ハレンシヤウト唱ヘタシ　レンセイハ漢語ナレバ

蕉
二二一
移動ク思ヒ　此ウノ付ハウヨシ　付ルナラバ　テノ字ノ付ク
付ベキシ　但シウノ字付ズモヨキカシ

呉
ハハ　ハハ　ハハ　ハハ　ハハ　ハハ
ふるきためしをひく糸の
此此　記シテモ　呉ニテモヨシ

呉
呉国の和使　ゴト云　何ト云　国ノ名シ　スレテ　ココロクト云ハ
心ヅカヒ　あシ　此人ハ笑フナシメリ

呉
ふるきを思ふ心ぶり　二二二ヲ　享ノ付ヤウニ屈セズ上ノ必ク強シ

呉
服ノ文字ニスレテ云ヤイカン

東
法筵と也ふ極楽乃
法筵ト云ハニケンカント俗字付
ヨシ　呉ハ法良ノ思ヒメガヘカ
ケニクウン也　クウデンナド云ニ同シク
クウン也

蕉
四家ともれ分　ケト　俗字ヨリ付タリ
トリワキニテハナキ歌　ロ紀

山
仏法あまた也。世法ハ[illegible]　ヤト朱ニテ出入アリ
見ヤノ字ニテハナシ　然ト動考アルベシ

山
休むおもふ肩を加し　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ　ヤ
おもふ肩を世方付ヤウワロシ

石
赤梅極乃ヤ[illegible]　ヤト朱ニテ出入アリ
見モヤノ字ニテハナシ　然ト動考アルベシ

石
赤梅檀ノ[illegible]ヤツラ[illegible]名 ヤト朱ニテ出入アリ
光モヤノ石ニテハナシ 紙し 助[illegible]アルベシ

[illegible]

滿[illegible]自解を記ス

一共ふ白籠をふひらて[illegible]敬を
ふ[illegible]ら 世ま常並ニシヅメテトメズ サシ兼ネル

清ちらしへきく

満まる月解を記ス

一共ふ白籠とふひらてふ敬を
法師居り　はな常並ニシヅメテトメズ少シ兼ネル
少軽クトメルガヨシ　次強シテノ出ヲ待セシ
ガ為シ

今是ニ准ズルニ

恨ハさらにこそ清しく
光源氏乃詠といむ

此類　同様カ

一　よつつ孫乃宮世ち
名もたかき乃里ち乃者きて

よ　常乃世ふ　義理を張セリ
名も只法乃変ふ　力を張セリ
（此方を表ふ強ふべし）
例を示すべ
和ふ物名とのふあり　俗ニ云ク類ト云

あるべきに
あつち乃ちや

秋ハ花ど月乃かつらち乃ハ飛る光をもとちる涙斗を
ぬハ二句ニ句ち乃ふかるせり　実ハあるやと云ヘ

又ある云ニ
ひちまき

めぐるまはくばとにさるを以るびちり乃今
とハばや

又ある云ニ
ひちつまき
めぐるまはくばとにさくを心くびちりぬる今
とはばや　あハ雪ふかくもちり
遠乃上ゝも見ぬ人ゝ遠ふく

一　を時如も。くゝべさゝし　乃心ニ多ク多テ遠フベシ
くゝべさゝちり
ふかてを立ゝる
まれば

一　塩ゝへハ、原乃頂羽。切心　乃ゝ頂羽ゝ。ゝ狙ゝ断ゝ　表ゝ記ゝ事
原乃頂羽ゝ　ゝ狙ゝ断ゝ　表ゝ記ゝ事

一　心科乃星人も　「与」乃ゝ字ハ近ヲ乃ちを拾てひつゝみて早く
さゝ字ハ元付ざまゞ柏ゝふ近き
星人乃ふ「たつゝ」と遠ふゝ
ありがゝ記

一　ヤヲ　ヤヲハ　ミテ　ヒットリノ間ノ　ヒヤウ　ゝ　何ゝ也
心ゝ　章ニハ　アテズ　ゝ　ヒットリニ　アハ　ベし
乃ゝ　ゝ　ゝ　ヒット　ゝ　ヒット　近ハ　ヤウニ　ナラベル　ゝ
（ゝまヲ　近ベテ　ヒットリニ　アハ　ベし
（ゝまヲ　近ヒバ　オ　ガラ　ゝ字ハ　延ビ　ユ　ヲ　モ　ノ）

の　ヤヲ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ヤヲ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ヤヲ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

の　ヤ　にはとり　を　ゑ　ま　ん　心乃

ヤ　○　ハ　ル　と　ゑ　ま　れ　た

ヤハ　○　ら　ん　ま　つ　き　乃　ま　つ　ら　こ

ヤハ　○　上　に　に　ま　く　そ　ま　乃　ま　ま　と　ら　を

ヤハ　○　ま　に　に　乃　乃　そ　さ　い　ま　ら　ま

おもてへし

一さむるかいなかへ乃宮より日ハ少

一静もあるかの乃 芝より和ノ小カ

又

のゝ方をつくしてもれ聖人

ひとりやの面乃あ言もとて

ながいつとあくをでめより聖こ

当りカルヤウニ遠ひ来ぬる

[illegible]

言

松ふるよりて徳を[illegible]

難

峰ふり郭ふ還向仕い

天皇いわふ拱乃

三 篠窓而をもて

日 再ふとして雲鬱を出

都留乃郡より朝立も

沈鬱より詞ふて

聖教乃都路

言 松ふるて猶を廣はまし
雜 峰ふ郭ふ還向はい
夫 望ハふふ拱乃

三 篷窓雨まるて
日 用ふとして雲鬱を出

都留乃郡ハ朝ハ
清磯ハ訪ふて
聖教乃都落

光 瀧月松岡
鮮の竹竿ハもとに透
晨詩夕梵乃餘音斷ろ事なし

揚 宮殿盤々 莊嚴魏々 寂寞ふる山眼 太液乃
法 ふつを衆生乃姿とそれ
惰慢乃汲をそろへ 愛欲貪一通之道場
眼裏ふ塵なて三界窄
朝 塔頂 玉文乃塔調
大 うそ海をそふい飲水をれ
二 あも義理山徒ふ与人をそ礼 曳やと引抜ふ
海 奥深い海て胞脹し
西 絲葺ハ車ときけ
都ハ玄乃海 紫爛たり
法海 都ハ玄乃ハ玄ふ山乃横川ハ乃ハ十七乃尾
ハ 松ふ乃松歌て
海 潛乃海人 日月ハ等を強冥路昏ふ里
藏 藏ふ乃山乃宝珠樹
あふ事ハかふ乃ふ乃ふ乃果ハ
心 ふ事ハかふ乃ふ乃ふ乃果ハ

蕉

蕉雨の山の雲珠桜

あふみの中にかくれなき所にまさりて遠桜

まさに咲

祈雨僧の三日目に

笠のあさつゆを除てぬけ　驚瀑激して

芭

山峡の陰冷として

風破窓を鼓て　月踈屋をうかがひて

崖寺の古小殿に祈い山の深きふ傷まむ

午羊渥淵小殿に多き苔の深きふ繁る

街

芭

松原の下村小まちまち芦の　風静まりて出

小

花小映して氣生海底の

ふてふ小ゆめき地小ふく籟の夢もおもてしし

雨雅吹テ物ノ有ノ聲ヲ曰籟ト

西

小辰を拱まる　桃を待あり

蕉

一色一香の孤生小　人の箇々孤生　玄旨北東

執心却来の海屋の毒執

巴

つくきく沈夜の初雨

分別同居の廣小まり至　青蓮の眸ふ

芭

清茂ちまり松小中也　毒蛇しの行ふへき

柱杖に毒をの孫の梅　山城與堂の毒をへて

支證ちきこの日かな

疱疫祈も

小辰を拱すること　桃を侍ふ

一色一香は孤生ハ　人の箇々孤生　云ふ所中に孤生

執ハ却来乃清屋は毒執

つくゝきく沙夏の初尚

分既同居乃廣小まゝ　青蓮は眸ハ

清夏ちゝ枝ハ中也　毒蓋しなふへき

柱は毒をを後の梅　山城與堂乃毒人

支證なきのかゝ　疱疫神も

獅子奮迅虎乱入　もつ冠者ハ

山の峻よりを尺度とハ

四海乃毒色ハ掌はうちに照し　百生は理氣ハ心は

裏ハ懸しこと

生別離はくらゝ

草花は咲ぬとして　雨原富ハとは戒

ゆやまし　は理強あり　うるはし

夫ハ都乃国は主とゝ　踏石天を照

舊鄉を思ふ　ふるせとゝ

林原乃山陰道より　沼頭ちゝ

大

林原乃山法道与重

沼頭与重

「内代」「内新」ハ数字ハ「けま」ハ　この字ハ加ふるこふ及

「中」ナカト云トキハ假字ヲ付ニ及　チウト云ニハ假字ヲ付ベシ

「とり」　弓辺ニ「とりわく」と云ふハ
ところ乃上畧ニ

○松　小

○龍

○乘

○紅葉

「さかぎ　さかぐ」
「にほひ」　「にほひ」祝ニ

「ちなみ」　「ちなみ」　「ちなみ」

「ちなみ」ハ假字ヲ花乃
ちりくを佐
云

「ちなみ」
ちなみを
ちなみを　ちなみを　ちなみを　乃假字ヲ花
ちりくを佐
云

「ちなみ」　「ちなみ」
ちなみ　ちなみ

「ちなみ」ハ假字　「ちなみ」
ちりくをなりてこむこ

「都て」　ここて　此等ノ節ノ行義ニ
つゝ

「井筒」
「ちなみ」ハ「ちなみ」と
云ヘきちなみた　ちなみ
ちなみ

一漢字ノ音ハ　字音假字ヲ片仮字ト云書ルベシ

漢字ノ音ト云ハ　さとんば　松風ト云ハ　音ニ　ショウフウト読ムカ如シ　訓ニ　マツカゼ　日本ニハコリカゼト読ム訓ニ　ヨミコエニ

漢字ノ音ニ　あう　あうせう　せう　せふ　とやうニ
やう　ようう　えう　えふ

もくひ音ノ假字とかくきまりたるもの假字ヲ片仮字
書ヲ乃て云ヘシ

寺

いね　えね　おね　をノ假字

漢字ノ音ニ　あう　せう　せう　せふ　（訓ニ）
　　やう　よう　えう　えふ　とやうニ

もくり音ノ假字とかくまたもくまたもくもくこ假字をひらがな書ヲ用テ云ヘシ

持寺

いわ　えん　おもを　ノ假字

ちず　すづ　ノ濁ハ　うとに　まぎれ　やとに　たもつこ

日本ノ假字ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　言葉ト云書ヲ見ルヘシ

下中ノ已之假字

かう　ふ　ふ　ふ

又 毋ト云ヘキコトメラサル故 毋ラトラルヲ
ヲヘテ云ガ如キ 毛ヲ名付ル云ヘ

おゐ 初 うひ

ゆゑ 故 いへ 家

ゆく 行方ヘ 行潟ト云ヘ云ル 潟ハ忘ル假字ヘ

いゆしへ 往方ヘ

こそぢ 三十 こそぢと云ヘ云ル

もとゐ 末

おく 奥 おいて 於 おと 音 おほし 多 おふ 追

をさめ 治 をしへ 教 をち 遠 おち 落 おろか 疎

おほ 大 を 小 をがみ 拜 をしみ 惜 をさなし 幼少

をめく 尾 を 緒 をどり 踊 おとり 劣

をる 居 をり 折 をとこ 俗ヲノヲ云 をさ 長

ゆふ 夕 いふ 云

判友記をちこちの 名称おして原
えいやくとゆふは 世類いつもし
我ちりとゆふや安絶 いひかけ 叶ハヒ

ゆふてのかこをもあけて
まてやらの乃ものをこと
大ハ名ガ名ガ名ガ原乃里
云乃名をいををの表乃 名ハ
いひかけ 叶ひて
よ

元字ハ唯ハ語の名ヤ名ヒ

限ヲ定なりれい 茅をさし 毛ぬ

元字の八唯字の為ヤ為ル

限ア定なりれい草をとさし毛ぬ

ゆふてのかこをもあけを
まてやらうの乃毛乃をこと
ふいふ為ぬ字ふ乃里
云乃毛をといをその表乃　元字い
いうけけいてよ

一　廿一　廿二之組　入三字九ツし凡八合セ
　　廿ふうにさせへし

元字ハこと

十書ハ勿論　九書し　習之ふい　入三字多

老

晨説文梵の郷考　乃ふ事あ

たゆう

「文字のウ」

老

「晨鐘文梵の響たゆたふ事あり」

「夫れ人のウ」

脇能モノ、セノ中ノ切ハ表面ニテモスエテ演ノモノ

脇能モノ〻セノ中ノ切ノ下ハ事ノ深ニテモスエテ深フモノナレハ本ノ事ニ　ふり必此記ニテヨシ　脇能ノ分ニハ幻繁物

ノ外其ニウチアルモノ、類ハ　ふり必此記ニ無テヨシ

総合ニナル事ニモノニテモ事深ニハスエズニ深フモノナレバ本ノ事ニハ　ふり必此事　付又ガヨシ

但ハ　実ハ　中ニ　ハ　仏も　必此テヨシ

無記ナル者ノ事ハシラズ　切ノ心ヲタラシ人ハ事ニ付カカズ

トモ　切ニ深トキハオノヅカラスエテ　ふり必此通リニ深ベキ

事深ノトキスエズニ深フ例ハ

塔婆　能也　井筒ナド　都テノ〻セヲ　猶吟ニ深フ見ヨ

スエテハ深ハ又ニ　深本ノ事ニ　必影ノ深ニテ事ヲ事ニテヨシ

但　井筒ノ切ノ下ハ　面ヲ　ここ　ふり　神ヲかけウ

切ノトキ必此　ト小書ニ本ノ上ノ下ノ記ニ無ヘキ也

因テ問

都テ切ノ下ニ　ふり必此事ニ深フアリ何ノ事ノ

決合ニテ事ニ極アルヤ　後伺ニ具ニ細ノ下紙ニ

先決合ニ本ノ下ノ冊下ノ事ニ相対ス

先ヲ入ル事ヲ不ル冊下ヲ和対ヘラ
義無ク御此義ヲ取リ被見給ヒ
是迄ヤ事ヲ申ス事ヲ
見ル事ヲ申ス書ヲ取ル人

拍

ある時の事
心つくべき風ふく
ものを流す

是ハ如ニ倒サレヤハリ一応ニ下
ヤウニテヨカルベシ

仏おようつしまを
ハ

ハウキハ口ロキ流ヤウニ
云フヤフ言ヒ仍テ冥会ヤハ
ウ
如ニモ侍流ニハ義ラモ有ルベドモ此流ヲ
未キカズ ハウノ事ナキガヨカルベシ

ハヒ女 ヤシトメト流来シリ高時ハ此ヲ
太 薪ふの花を 此ハ此アリ 是モ 薪ヲ花ト ハ事ナキ方
ヨシ
猶しるものを ふり 事ノ字ノ ハ事ナキガヨモ

ハアメリ
それやうとて
ぬれぬ
ぬれぬ
ぬれぬ

〃 ふり　あ字ノ方ヨリ出ナキガヨシ

〃 とれやうんとそ　二ツ

〃 字しさいまのら　天地ノ字ハ付金テモヨカルベシ

〃 洗ヤ

〃 ふくの色ハ色の多ること

〃 位ふ　はアメリあくもうゑ　ト思フこ

〃 高角して　〃 ぬふくもうゑ

〃 さらぬ

以上ハモチノ字ヲ見ルベシ　付ヌガヨシ

右迄ハ物ノ持合ト云モノニ多ニ物ノ記ニテハ

モ字ヲ引張ルナルこ　仍テ付ヌガヨシ　平点ズル　右ハ

物合ノ加減ヲシラヌクラキ者ノ考ヘニテ付こ多ナルベシ

物合ノ加減ト云ハ都テノ物ノ合ヒフシノ付ヤウハ皆

前ヨリノ仕掛ケヤウ也　モ前ヨリノ仕掛ヤウニクラキガ

故ニ〃ハ此ノ字ニアテ〃引延ルナルこ　前ヨリノ

仕掛ヤウトイフハヤさんとそト云ハナラハさんノ

さノ字ヨリ字しト云ハナラハえしノえノ字ヨリ

腹中ヲハカテモ字ヲフクラセルヤウニ延ヘバモ文字ガ

度ガリテ延ル　物合ト云ハ都テ文字数二ツヲ

度ゲオヘスレバ物ハ自ラ延ル　仮ハ文字数三ツ

アリテ物ヨハイニハ云ベキ右ニ文字数二ツナラデハナキ右アリ

モ時腹中ヲハリ度ゲテ島ヲフトラセテ（文字モフトルこ）二ツノ

文字ヲ三ツニナレテ物ヨニ合スル　モヲ持合ト云こ

右迄文字一ツ右足こ仍テ（一ツ多ヲ足ニガメニ）

物ヘバ多角してト云ハ　もノ字ニテモもノ字ニテモ

行ヲテモ一ツ足こテ遥テ足ハヘ　モ時持合ト云モノハ

第ハ先ニテ進ムヘシ　入ラヌこ

一〃 さ字付テヨロシカラヌ　変ニ数多付テアリ　仍テ書

連る　巻ス間ふ筋　消ヤさるベし

ヨカルベシ

はアメリ
あくもうる
四ふこト

カヨシ

ぬ彩記ニテハ
平克ズル
ホハ
付ニ
ナルベシ

ヤウハ皆
ヤウニクテキガ

前ヨリノ

さんノ
ノ字ヨリ
ハを文字ガ
る数ニウシ
字数三ツ
デハナキホアリ
トルニ二ツノ
合トヒニ
メニ
ゲテ足スニ
モもノ字デモ
合トヒモノハ
入テヌニ

ナアリ
仍テ書

老ニ所持シ不ニハ
芝居シ事ナキ筈ニ
を来ノ白米ヲ
いろ〻決会の事
紙ト

老ニ所持シ不ニハ
芝居シ事ナキ筈ニ
を来ノ白米ヲ
いろ〻決会の事

一 仮字付テヨロシカラヌモノ 数多付テアリ 仍テ書
連る 些ス間ヲ残 消サヤウ

直 をぢなのまつばら
〃 ちもとをあらしたる
〃 榻乃木ハ
〃 ちきの流をこいく

紀 紀ノ国 風ノ国 三
〃 心耳をとゝめ
〃 ちの時 三乃甲斐乃ゆ
〃 ちき流をこいく

眠 眠きまれ 河枝の間
〃 見る 嫌 深夜
〃 眠ハ 備後

志 一乃民時をのたのして

愛 南無
指云 仮 歌

南無トモヤシト記シタリ 仮字ハ入ラヌモノカ
且 託ナル字ノ付方シ

梅 ふる紀 梅をして
〃 梅ヲ 梅乃

忠 言とも花こそ

無 我乃 高乃 乃紀
〃 ちもと もとど
〃 乃地 地

仮字付タル所ノ部ニ ふ仮字ナル下ノ字 濁ハ仮字ヲ
付ザルモ皆 如此 近ヘタガルモノ 右ニ挙ル字ノ仕様ヲ

ナアリ
仍テ書

光ニ所持ニテ不ハ光名ニ書ナキ名
を書ノ名ハ
いろ〳〵決合ニテ
[illegible]

倶ニ界一心ナリ
相ふかきしで
[illegible]
光等ハ別格也

[illegible]
ハ大事ヲ
[illegible]仕様ヲ
[illegible]

[illegible]紀
[illegible]ヲツイデ
倒サレ外ノ
[illegible]

[illegible]ハ入ラヌモノカ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六法ノ内カ地蔵

ハ、ヤ付タル所ノ事 都テ ふ物ナル下ハ 強ハ ヤ事ヲ
付サルドモ皆ハ如此引延ヘタガルモノ 右ニ挙タル事ノ仕様ヲ
以テ思フニ先ハイニタ 強トモノ 多合 是合ヲ多ク知ラス
者ノ多シ付タル 如此ノ和ヲ 引延テドウニテ物ヲ
合フモノカ 多シ見テモ人ノ為ノカノ程モ大ル知ラルヘシ
和カニキルニアラス ハ ハ ハ 先ヲ解リ カ様ノ和ハ何ニモ
別テモトニリノ字プリト切テ高ヲ多リサイ下ヘ引
相サイ下ヨリ次強ヲタツフリト 度ケテ出スモノ
直ヲ和 ヤ式和別テ 都テヤアノ多ノ高切ニ五跡
ヒザバウマクナレヨリ 立ヲスベキ
為 高ヲ入バ 先モ同シ高ヲ引テ花ヒヲ度許
タツフリト出ス ヒハノハ多ヲ引延
居テハ次ノ花ヒヲノ出ヤウオクレテケナナ
花ヒヲニナルモノ

糸ハ淮ノ糸ヘベシ

志賀 但コハモチヲ付ズヤシト
ヲ ヲ記シテモヨキ和
モヲ
先ヲ
ヒヲ
ヒヲ
ヒ

ヨシツイデ
倒サシ外ノ

面ハ式紙ヲ
字ノ仕様ヲ
ムルヲシ知ラヌ又
モテ物ヲ
知ラルハ
ヲシ
ノ面ハ仮ニモ
ベリ引下ヘ引

高坂立孫
ベキシ

ヲシ度許
字ヲシ引延
ルニテケチナ

付ズヤスト
モヨキ所ナシ

付文字ノ
足ラヌ故ニ
物ヲシ

モ ヨメサウナ
ラズ

ルニ 遣アラズ

ルニ 遣ヲラズ

トモ

ヲ

ヲ

ヲ

一ハ字ニ系付ヤウニテゴトモオンドモヨメサウナ
ウルサシ上ヨリノ濁リヤウニテヤウニテ悪クゴト付ケント付ケ物ク
モノニモウツリカ減シテモヨメ又人ハ海ノラズ
ハ系リ ハ濁リ ハ濁ノ ハ濁ノ類濁ニ濁アラズ
又ハ前 ハ濁 ハ濁 ハ濁ノ類濁ニ濁ラズ
右何モ物何ナル者ガヨミテモ ゴ系リハ（オンモ本ヨリトモ
オンモ利セトモ オンモ濁トモ濁者ハアラジ濁ラズ
ンコンナモノモ ゴコンナモノモ付ルハ西洋ナ付ヤウニテハ
何モ ナニモ付ルニ及バズ ナキカ
但シ無節ノ ハ濁 ハ濁 ハ濁ノ類コソ
ゴタウザトモ オンタウザトモ オンアメトモ ミフメトモ
フルテ何レヤト疑ハシキ所ニコソントモ ゴトモ トモ
オトモ記スベキナレ ハ濁オンソウト云ハハ付ルニ及バズ オソウト
又章ニ実別又白 云付ニハオト付テヨシ
ハ濁 ハ濁 ハ濁ト云ハ付テ

付ズシテ濁ラヌ字 但シ濁ラヌ字ハ濁ル字
上ヨリカヤクモ殿 ハ濁 ハ濁 ハ濁代民 教ヘ乃
海ヨリ陸ヨリ系ノ輝ク ハ濁 ハ濁 ハ濁 ハ濁
飛リ来ル鳥モ ハ濁 ハ濁 ハ濁

[illegible]ハ、此付ヲテ[illegible]

[illegible]ノ此ニ又者ハ人ハ[illegible]ノ歌

他ヘ[illegible]ヲ付ヘキニアラズ

渭ル字ニ下ヲ付ル事

老人　此字バラウジントヨメルニ紀ニ老人ノ此

歌人モ用ル　朱ニテ点ヲ加ヘバオイビトトヨメルニ

元来人ハジントヨム　渭ル字ナレハ也

シントヨム　清ニテ訓アレバ　ヲヲ用ルモ可ナル

ベケレド　人ハ字ニ必此ニテハビトトヱリヨミヤウナキニ

故人　聖人　賢人　皆ヲヲ付テハ違フニ

神祇　仏祇　仏ヲ　日ヲ　月ヲ　日月　月下　月日　海月ナド　舞歌　忘心

各持ニ入　渭字ニ紀ルヲヲ付ルハ正紀ニテ

清渭　無ヘキ事故ニ　付ズトモ皆渭テヨメルニ

清宗寺ノ宗ハ清字ナレハ　ヲヲ付サレバナラズ

兼歌ノ歌ノ字モ同ニ

第ハ准ニテ紀無ク知リ正紀ヲ離ルベニ

乃字出ル紀ヲ

近江国　伊勢国　志摩国　河内国

播磨国　大和国　紀伊国　但馬国

皆何モ乃此字ヲ出加ヘ名ハ得ニ

吉井　赤穴　別所

本数　皆ノ字ヲ附ヨミニヨム法ニ紀ハノ此ノ此加ヘテ

乃字出ヲ記ス

近江国　信濃国　甲斐国　河内国

摂津　大和　紀伊　但馬

丹後　備後　加賀

皆他モ乃此字ヲ出加ヘ名ハ誤ル

右数皆ノ字ヲ附ヨミヨムヨシ知ベシ　世間ニテ出ヲ見ヨ

之ノ字出ハ不ル事ナシ　松平加賀守殿

世中ニモ乃ノ字ヲ出ザル法シ　但テノ必ズ付テ

此ヲハ本居大人ノ勝間トイヘル書ノ抜書ヲ

写シテ見進ル也　抜見也

フシヲ出スニ名ノ字ノ

下　中　中　中

「今ノ流布本ニハ口キ書ザマアルヲ

瓶 名木やうんとゐしゐ墨の成きる同すゐ

梅 梅津乃伊果とハ我ガ口ヲ也

必世書テハ墨ガ成きる 我ガヲ也トヨメル也

都テ

遊 あそび あそぶ 思 おもひ 行 ゆく 類 たぐひ たぐひ

又

獨 ひとり 閑 しづか 紅 くれなゐ 類 たぐひ 活カヌ みなし

墨 おろし

たぐひ字の下ハ思ひ思ふ 活ひ活ふとやうに 假書を

付ざれバあるまし 又獨閑紅 員などのたぐひの

下ニ獨り閑り墨りなどやうに假をを付てハ余分の

ことぶ

ことゝ知てよくあるまし 道記ニ時き者ノ誤ニ

又

書

うつ月日し重りてし 芝そハ重りてトよまるし

かさなりてトよませるニハ

重ありてト云ざれバあるまし

又

芝成 いう成 詠歌ハ 亡灵成ノ

亡灵成ノ類 多クなり いつれも つゐし

皆假字ニあるとゐへきこ

成ナルト云付ハ 雀海中ニ入テ 蛤トナル

ヨメガ シウトトナル

チリツモツテ山トナル

何ニモ トナルト云

皆ニ成ノ字ハ

云モノニ

成ト云字ハ書あれ

などゝ云付ハ

芝ある いつれる 形ゑし 形るゐノ類 みる 假字ニ

云ぞよき

亦

當 沖鄙掛 芝ハ歌の目あれハ 假字ニ云ぞよき

ゆてかくと

[illegible]

京

浄瑠璃掛　[illegible]ハ敬の字あれハ敬てかくと
俗字ニ云ぞよき

浄瑠璃かく掛　[illegible]ハ月乃かくの如くなり

敬への道し　又ハ敬への道　此への字もかさねもあり

むきへをふとをふとをふとをふとされた下ニ乃字あれバ
をふの道をもよむべし　ハ敬ふ道へもよむべし
[illegible]ハ　都テ此への字ハ書そし　注るきへの字也

[illegible]に雑掌のうの河　角ぞこつらんと云を
[illegible]と云バ角ぞこてつらんともよむ
又[illegible]と云バ角ぞこらんともよむべし
[illegible]の字ハ俗字ニ角ぞつらんと云て

[illegible]

むせ　[illegible]　何しモント云モノヲ付ル[illegible]モ
入サルるカ

[illegible]　[illegible]ハント云モノヲ付又ハイカヤウナル[illegible]ゾモ

[illegible]ハンニテ　むせ[illegible]を[illegible]ハムシトハ[illegible]
四ツトモ皆ムノ字ニ

[illegible]ハ　[illegible]字カ本し　[illegible]ハヤハリ[illegible]ハムシ

[illegible]に雑掌のるゆゑ　ゑぶこうんと云を
陽門うんと云バ　魚ごてうんともよめ
又陽うん　と云バ　魚ごうんともよめ
カ様の所ハ　唯　仮字　魚こうんと云て
[illegible]
むすび　蒜　何ニモ入サルるカ　ント云モノヲ付ル　光モ
ん　光ハ　ント云モノヲ付又ハイカヤウナル仮字ヲモ
ん　光ハンニテ　むすび蒜　光ハムシトハ光ハ
四ツトモ皆ムノ字こ
ん　光ハ　光ム　光字カ本こ　仮字ハヤハリ本ハムこ